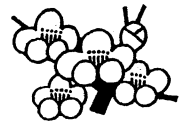


日々の想



ずいそう

(郡山少年自然の家主任指導主事)

ソシオドラマと 出会って

山口 浩



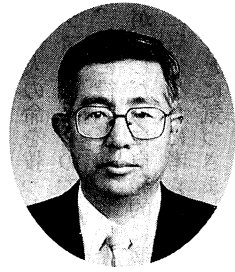
人は誰しも心の中に自分だけの鏡を持つているようです。それに気づいたのは、ソシオドラマの研究会に参加した時でした。

社会科の教員として行き詰まりを感じていた時に、この研究会の「何か楽しくて、しかも授業に役立つ人間について洞察力がつくとともに自分自身にも出会えるような試み」というキャッチコピーに強く引きつけられ出席しました。

ソシオドラマは、日常生活の諸問題を解決するきっかけをつかむために行われます。その手順はウォーミングアップから入り、参加者のやる気や自発性を引き出すとともに、あ

鮎釣楽

遠宮 新治



た。磐梯山と猪苗代湖にやさしく抱かれ、自然と一体になり、無心になれる楽しみも味わえた。

平成八年十月。平鮎釣の幸運に恵まれた。真鮎釣の道具で、ボウズを続けているうちに、餌の食い付きが真に良いので「真鮎」と書かれること、平鮎は、始め練餌をツンツンと突き、次に口の中に吸ったり出したりし、練柄が小さくなったとき口の中に吸い込み、最後に針の硬さを感じた瞬間吐き出してしまうことなどが分かってきた。道具を全て平鮎用に変え、平鮎の食性に相応した合わせのタイミングに変えたら良く釣れ、三十センチ級の大物平鮎も容易に掛かり、大きな手応も味わえた。

私にとって、この平鮎釣では、釣道具・合わせのタイミング、水の濁具合、気温、水温、水中の酸素量、水生植物、天気、風向等の「総合」の仕方を変えていくプロセスを楽しむことができた。

平成九年正月。六年生の息子が海釣のゲームをするのを見た。竿とリールとテレビがセットされ、「ヒイテルヨ」の音声に合わせて、釣竿を上げると、「ヒット」の字幕。リールを巻くと手応の感覚を楽しめ、メバル等が釣れるまでが映し出された。

海釣のゲームは、文字・音声・画像・動画等のメディアを「総合」し、対話性も持つてるマルチメディアで、感性的な釣の楽しみにまで近付こうとしているのに驚いた。地球サミットで採択された「アジェンダ二十一」に、地球環境のこれからの課題解決の鍵は、『総合』と述べられて

私に、今、小学二年のときに三十センチの大物真鮎が掛かったときの手応が忘れられなく、拘り続けている。大物真鮎になるには自然が十年も育み、手応が大きいということ人間に釣用に養殖される平鮎の二倍もの年月を要し、めったに掛からない。非常に難しいゆえ、拘っている。難を求める楽しみにさえなっている。それはまた、猪苗代湖を複雑極まりない総合化によって、清冽にすることを願う求めの拘りでもある。

「釣は、鮎釣に初まり鮎釣に終わる」私は、これからも、鮎釣を楽しみ続けたい。総合化を楽しみ(願う求める意) 続けるために…。

平成七年五月。ひさしぶりの釣。猪苗代湖に注ぐ川に糸を垂らした。川は生活排水で汚染されていたが、真鮎の産卵期の入れ食い状態で、面白いように良く釣れ、九十五匹の成果。全て十五センチくらいの小物ばかりではあったが。

私にとって、この真鮎釣では、掛かった瞬間の快い手応を十分楽しめ